

博士論文の審査結果の要旨

専攻	保健医療学専攻	分野	看護学分野
学籍番号	14S3024	院生氏名	小檜山 敦子
通学キャンパス	東京青山キャンパス		
論文題目	妊産褥婦における妊婦貧血の発症および貧血非改善の影響要因		
審査結果(枠で囲む)	<div style="display: inline-block; border: 1px solid black; padding: 2px;">合格</div> 不合格		
<p><審査結果の要旨></p> <p>1. 主論文の概要</p> <p>著者は、周産期医療の臨床において日常的に観察される妊婦貧血に注目し、前向き縦断研究により妊娠初期から産褥1か月までの追跡を行い、妊産褥婦における妊婦貧血の発症および貧血非改善の影響要因を明らかにした。首都圏の産婦人科診療所5施設において協力が得られた、妊娠12-15週のHb値11.0g/dl以上(WHO定義)である貧血のない妊婦1397名を対象に、妊娠36週、産褥3日、産褥1か月の時期に自記式質問紙調査とカルテ調査を用いたベースライン調査を実施した。貧血発症および改善の有無を目的変数とし、基本属性、貧血の状況、自己管理能力、食生活、貧血指導内容の遵守等を説明変数として多重ロジスティック回帰分析により影響要因を分析している。その結果、貧血発症の影響要因として、妊娠後期では①非妊時の欠食、②経産婦のうち前回の分娩から今回の妊娠までの期間、③妊娠初期のサプリメントの内服、④妊娠期の栄養指導の個別指導の時期、⑤自己管理能力であり、産褥3日目では④と「妊娠期の栄養指導内容の実施」という違いが提示された。貧血非改善におよぼす影響要因においても、産褥3日目と産褥1か月での違いを導き出している。</p> <p>本研究は、本学の倫理委員会の承認を得て進められており、適正な倫理的配慮がなされていた。</p> <p>本研究の結果は、成書に記されている妊婦貧血の知見に、現代女性の生活の詳細な実態を影響要因に加え解明した点にあり、女性のリプロダクティブ・ヘルスに貢献する内容として高く評価できる。また、妊婦の健康上の予防活動を長期的なライフサイクルの視点でとらえた意義ある研究である。</p> <p>2. 審査経過</p> <p>審査会は2回開催した。平成28年12月2日の初回審査では、概念枠組みにおける用語の定義、説明変数の抽出方法、調査時期別の説明変数選択の妥当性、調査データの解析方法、論文記述にみられる内容の不十分について指摘され、論文の加筆修正を求めた。第2回目は12月26日に開催した。再提出された論文においては上記の指摘に対し適切な修正が行われていることを審査した。</p> <p>3. 口頭試問</p> <p>研究方法の適切性、統計的手法の適切性、概念の意味について口頭試問をおこなったが、適切な解答が得られた。</p> <p>4. 合否</p> <p>以上の結果から、審査会の審査員全員は本論文が著者に博士(看護学)の学位を授与するに十分な価値があるものと認めた。</p>			
論文審査担当者	主 査	齋藤 ひさ子	
	副 査	池田 俊也	
	副 査	岡崎 美智子	